HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

| | |
|---|---|
| タイトル | 小野寺教授　挨拶、略歴・研究業績 |
| 著者 | 小野寺，静子；ONODERA，Seiko |
| 引用 | 北海学園大学人文論集(54)：15-21 |
| 発行日 | 2013-03-31 |

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

小野寺静子教授

# 古典を活字で読む

小野寺　静　子

私は 2001 年 4 月，本学に赴任いたしましたので，12 年間勤務していたことになります。このたび定年により退職することになりました。こうして定年を迎えることができますのは，皆様のご指導とご鞭撻によるものと，深く感謝申し上げます。

私は『万葉集』を中心に日本古代文学の研究に携わってきました。『万葉集』について一言でいうと，面白い，ということです。しかし，本学においてはカリキュラムの関係から，『万葉集』については文学史の中で僅かに取り上げるのみでした。そのことが心残りではあります。

自国の文字を持たない我が国は，表記に際しては漢字を用いました。『万葉集』でいえば，作歌事情などを記す題詞や左注は漢文で，歌は大和言葉を，万葉仮名をはじめ正訓や義訓，時には戯書を用いて表記しています。したがって，『万葉集』を原文で読むということは，漢字ばかりで書かれているものを読むことになりますが，平安時代から『万葉集』は草書化された書写本によって享受されてきました。そうした文化を身近かに持ち得ない私たちは，活字（現代ではコンピューターによる文字）印刷による文字によって『万葉集』の歌を読んでいます。

北海道の風土と万葉の歌が詠まれた地との風土には大きな違いがあります。今年の冬などは，雪は生活を脅かす闘いの対象でもありましたが，『万葉集』では雪は風流な景物として歌いあげられます。雪に限ることなく，殆どのものに対して感覚の相違があるといえます。

北海道に住んでいて，果たして『万葉集』の歌は理解できるのか，私はずっとその思いを抱いてきました。しかし，その呪縛から逃れられないものであるなら，文学はなんと狭量なものでしょうか。風土や景物に対する

価値観が異なっても，作品から受ける感動や作者が訴えようとすることは理解できるはずです。

北海道で古典を学ぶ，研究するということは，古典の風土のただなかにいては理解できない，文学の本質に迫ることができるということにもなり，活字に向かい合ってこそ読み取れる深さにたどり着くことができるのではないでしょうか。

人文学部のますますのご発展を，人文学部に「いや頻(し)け吉事(よごと)」（『万葉集』最終歌より）たらんことを願っています。

# 略　　歴

小野寺静子　1942 年 10 月 8 日生

## 学　　歴

1966 年 3 月　北海道大学文学部国文学科卒業
1968 年 3 月　北海道大学文学部文学研究科修士過程修了
1969 年 3 月　北海道大学文学部文学研究科博士過程中途退学

## 職　　歴

1969 年 4 月　北海道大学文学部助手
1976 年 4 月　札幌大学女子短期大学部講師（以後，助教授，教授）
1997 年 4 月　札幌大学文化学部日本語・日本文化学科教授
2001 年 4 月　北海学園大学人文学部日本文化学科教授
2013 年 3 月　北海学園大学人文学部日本文化学科退職

# 主な研究業績

**［単著書］**

1．『大伴坂上郎女』 1993 年 5 月　翰林書房
2．『坂上郎女と家持 ── 大伴家の人々 ──』 2002 年 5 月　翰林書房

**［共著書］**

1．『万葉集講座』第六巻 「大伴坂上郎女」 1972 年 12 月　有精堂
2．『上代の文学』「大伴坂上郎女」 1976 年 3 月　有斐閣
3．『万葉集を学ぶ』第三集 「大伴家持と坂上大嬢」 1978 年 3 月　有斐閣
4．『万葉集を学ぶ』第六集 「巻十三相聞の性格」 1978 年 6 月　有斐閣

5．『万葉とその伝統』「斉明四年紀伊行幸歌考」 1980 年 6 月　桜楓社
6．『万葉集研究』第十三集 「類聚歌林考」 1985 年 9 月　塙書房
7．『古典和歌論叢』「理願挽歌論」 1988 年 4 月　明治書院
8．『佐藤忠彦教授追悼論文集』「『怨恨歌』再論（上）」 1989 年 3 月　同刊行会
9．『万葉集研究』第十九集 「『名児山を越ゆる歌』考 ── 巻六・九六三 ──」 1992 年 11 月　塙書房
10.『和歌文学講座 3 』万葉集II 「大伴坂上郎女」 1993 年 3 月　勉誠社
11.『犬養孝博士米寿記念論集　万葉の風土・文学』「大伴家圏の歌 ── 類歌から考える ──」 1995 年 6 月　塙書房
12.『大伴旅人・坂上郎女　人と作品』「坂上郎女　在京時代」 1998 年 5 月　おうふう
13.『万葉の歌人と作品』第三巻 「穂積皇子の歌」 1999 年 12 月　和泉書院
14.『万葉の歌人と作品』第十巻 「尼理願の死去を悲嘆する歌」 2004 年 10 月　和泉書院
15.『古代文学論集 ── 村山出先生御退休記念 ──』「春の出挙の歌 ── 巻十七・四〇二一～四〇二九 ──（上）」 2005 年 3 月　万葉集研究会

**［学術論文］**

1．「万葉集巻十三反歌論」『国語国文研究』（北海道大学） 第 41 号 1968 年 9 月
2．「万葉集巻十三に於ける一面 ── 3324 番歌を中心に ──」『国語国文研究』（北海道大学） 第 46 号　1970 年 6 月
3．「怨恨の歌 ── 大伴坂上郎女の志向する世界 ──」『万葉』（万葉学会） 第 79 号　1972 年 5 月
4．「『悲傷亡妾』歌」『国語国文研究』（北海道大学） 第 50 号　1972 年 10 月
5．「大伴家持の歌日誌の終り ── 越中守時代を中心として ──」『文学』（岩波書店） 第 42 巻第 6 号　1974 年 6 月

6．「大伴坂上郎女の歌 ── 大伴氏との関係から ──」『国語国文研究』（北海道大学） 第54号 1975年6月
7．「万葉集巻十三論」『文学部紀要』（北海道大学文学部） 24ノ1 1975年11月
8．「万葉集巻十六試論」『国語国文研究』（北海道大学） 第57号 1977年11月
9．「歌人額田王の登場」『紀要』（札幌大学） 第10号 1977年3月
10．「万葉女流歌人 ── 斉明天皇論 ──」『紀要』（札幌大学） 第13号 1978年9月
11．「『崗本天皇御製』反歌考」『紀要』（札幌大学） 第14号 1979年3月
12．「『ひそかに』考」『紀要』（札幌大学） 第18号 1981年3月
13．「万葉集における藻の諸相 ── 人麻呂作を中心にして ──」『紀要』（札幌大学） 第20号 1982年5月
14．「大伴家女流歌の研究」『紀要』（札幌大学） 第7号 1976年2月
15．「『怨恨歌』再論（中）」『紀要』（札幌大学） 第13号 1989年2月
16．「『怨恨歌』再論（下）」『紀要』（札幌大学） 第14号 1989年9月
17．「ますらを ── 万葉集におけるその実像を探る ──」『紀要』（札幌大学） 第15号 1990年2月
18．「祭神歌 ── 万葉集巻三・三七九～三八〇 ── 考」『紀要』（札幌大学） 第16号 1990年9月
19．「坂上郎女の命婦の可能性についての考察」『紀要』（札幌大学） 第20号 1992年9月
20．「譬喩の歌 ── 植物の寓喩 ──」『紀要』（札幌大学） 第25号 1995年3月
21．「譬喩歌考 ── 譬喩の媒体が植物であるもの ──」『紀要』（札幌大学） 第26号 1995年9月
22．「玉に寄する ── 万葉集譬喩歌考 ──」『紀要』（札幌大学） 第27号 1996年3月
23．「薬玉考」『紀要』（札幌大学） 第29号 1997年3月

24.「『清』から『不清』へ ── 新しい叙情歌の形成 ──」『比較文化論叢』（札幌大学） 1 1998 年 3 月
25.「万葉集の『酒』」『危機と文化』（札幌大学） 1 1999 年 4 月
26.「春の苑 紅にほふ」『比較文化論叢』 6 2000 年 9 月
27.「紀伊行幸考」『人文論集』（北海学園大学） 20 号 2001 年 11 月
28.「大宝元年紀伊行幸考」『人文論集』（北海学園大学） 23・24 合併号 2003 年 3 月
29.「『紀伊の国の室の辺の江に』考 ── 巻十三・三三〇二 ──』『人文論集』（北海学園大学） 26・27 合併号 2004 年 3 月
30.「春の出挙の歌 ── 巻十七・四〇二一～四〇二九 ──（下）」『人文論集』（北海学園大学） 30 号 2005 年 3 月
31.「『さぶ』考 ── 万葉集を中心に ──」『人文論集』（北海学園大学） 35 号 2006 年 11 月
32.「大伴三依と大伴坂上郎女」『新人文学』（北海学園大学大学院文学研究科） 第 4 号 2007 年 12 月
33.「大伴池主 ──『氏族の人等』をめぐって ──」『人文論集』（北海学園大学） 38 号 2008 年 3 月
34.「唱和の可能性 ── 万葉集巻四・六五〇～六五二歌 ──」『新人文学』（北海学園大学大学院文学研究科） 第 5 号 2008 年 12 月
35.「紀女郎の歌 ── 大伴家持との贈答歌をめぐって ──」『人文論集』（北海学園大学） 第 47 号 2010 年 11 月
36.「笠女郎の歌 ── 譬喩歌三首 ──」『人文論集』（北海学園大学） 第 48 号 2011 年 3 月
37.「大伴家持への歌 ── 笠女郎型の歌 ──」『人文論集』（北海学園大学） 第 50 号 2011 年 11 月
38.「万葉集巻八・一五六二～一五六三をめぐる問題」『人文論集』（北海学園大学） 第 52 号 2012 年 7 月
39.「大伴坂上郎女の大宰府時代」『人文論集』（北海学園大学） 第 53 号 2013 年 3 月

**［事典・辞典（各辞典で，数項目担当）］**

『万葉歌人事典』　雄山閣　1982 年 3 月

『日本文学史辞典』　京都書房　1982 年 9 月

『万葉の歌ことば辞典』　有斐閣　1982 年 11 月

『日本古典文学辞典』　岩波書店　1983 年 10 月

『和歌大辞典』　明治書院　1986 年 3 月

『万葉名歌事典』　学燈社　1983 年 8 月

『万葉神事語辞典』　国学院大学研究開発推進機構日本文化研究所　2008 年 6 月